



ISSN 0385-0838

第 126号

発行所

亜細亜大学アジア研究所
東京都武蔵野市境5-24-10

電話 0422 (54) 3111

郵便番号 180-8629

韓国大統領選挙の行方

2007年3月の現地調査報告

野副伸一

筆者は今年3月11日から18日までソウルに滞在した。亜細亜大学アジア研究所の研究プロジェクトの研究活動の一環である。この現地調査は毎年三月に行っており、「韓国政治・外交の定点・定時観測」となっている。今回は9回目に当たる。

今回の現地調査の目玉は、何と言っても12月19日に投票が行われる大統領選挙の行方である。金大中、盧武鉉と続く左派政権が引き続き権力を握るのか、右派が巻き返して権力を握るのか、韓国の命運をかけて左右はぶつかっている。世論調査結果では、現在のところ野党ハンナラ党の候補予定者が圧倒的に有利である。そ

れに対し、与党陣営は分裂状態であり、誰が候補者として登場するのかもはっきりしない。現時点では保守派が断然有利なのである。

しかしそれにも拘らず、我々が会った保守派の人物の中で「保守派の候補が必ず勝つ」と主張する人はいなかった。過去2回の大統領選挙では、ハンナラ党候補が圧倒的に有利であったにも拘わらず敗北したという現実がある。さらに与野党の勢力が伯仲し、当選者と次点者の票差が小さく、候補者の失言やスキャンダル、政治的スタンスの取り方、南北朝鮮関係の進展如何等で、結果が変わっていく可能性が高い。そのため「最終的に誰が当選するかは分らない」

目次

韓国大統領選挙の行方	野副伸一	(1)
中国における「新農村運動」の展開	李虎男	(4)
「国際中堅企業」の登場(13)	西澤正樹	(6)
諺から見たネパールの農業	島田輝男	(8)
台湾の出産・育児事情(〇歳・二歳)	岡崎幸司	(10)
「アジアの窓」 共同体創設に向けて組織強化を 図るASEAN	石川幸一	(12)

というのが、我々の結論でもあった。

1、ハンナラ党候補の先行

大統領選挙の行方であるが、各党の候補者が決定される党大会での予備選挙がまだまだ先の現在、世論調査での大統領候補支持率争いが候補予定者間の唯一の闘いでもある。3月中旬現在、野党ハンナラ党の李明博前ソウル市長と朴槿恵前党総裁の二人が世論支持率で断然他を圧倒している。大統領候補支持に関する『朝鮮日報』の世論調査結果(2月20日発表)を紹介すると、以下の通りである。

李明博47・9%、朴槿恵20・0%、孫

鶴圭前京畿道知事5・0%、鄭東泳前ウリ党総裁2・9%、姜錦実1・6%、韓明淑総理1・1%となっている。他の世論調査でも、李明博は45〜50%、朴槿恵は17〜23%、孫鶴圭は5%前後の支持率を得ている。

三番手の孫鶴圭もハンナラ党議員であったが、3月19日にハンナラ党を脱党した。ハンナラ党にいる限り、予備選挙での勝ち目はないと判断し、独自出馬を選択したのである。それに對し四番手以下のウリ党議員の世論支持率は余りにも小さい。そのため盧武鉉大統領の最側近である柳時敏保健社会部長官ですら「ハンナラ党が大統領選挙で99%勝つ」と主張していた。

ウリ党関係者がどうしてこんなに人気がないのであろうか。最大の理由は盧武鉉政権の失政、特に経済の不振が挙げられよう。我々が滞在中体験した二つのエピソードを紹介しておきたい。一つは、タクシー運転手の反応である。金浦空港に到着し、都心のホテルに向かうタクシーでのこと。運転手との雑談の中で景気が良くないとのことなので、筆者が「春が来たので景気も良くなるのではないか」と言ったところ、運転手は「盧武鉉がいる限り、良くなるはない」との反応。そこで筆者が「そういう運転手さんも盧武鉉に投票したのではないか」と言ったところ、「騙されたんだ」というのが返事であった。ともかく盧武鉉政治にはこりこりというのが国民の偽らざる気持ちのようだ。世論調査でも、大統領支持率は一桁という、嘗てない

低さなのである。

もう一つが3月14日の「2007年不動産公示価格」の発表である。新しい公示価格により保有税（総合不動産税+財産税）が昨年より2〜3倍上昇することになる。余りの税額アップに世論は沸騰したが、それに対し財政経済部長官は「安いところに引越せば何の問題はない」と発言し、響きを買った。盧武鉉大統領も同じような発言を2月末にしていたのである。

2、与党の切り札

現在の与党は分裂状態である。盧武鉉では大統領選挙は闘えないと判断した議員がウリ党を集団脱党し新党を結成したが、かれらも有力な大統領候補を抱えている訳ではない。そのため、分裂状態の与党はいずれ金大中前大統領の主導により再統合されるものと見られている。

その統合される新与党の大統領候補として、有力視される人物が現在二人いる。一人は鄭雲燦前ソウル大学総長であり、もう一人はハンナラ党を脱党した孫鶴圭前知事である。鄭前総長は人柄と識見そして清新さが買われ、与党から強いラブコールを送られ続けている。孫前知事も実績とクリンさが呼び物で、思想的にもウリ党に近いと見られ、ハンナラ党からの脱党により、与党候補になる可能性は強まっている。

問題はこの二人のいずれかで与党が勝てるかどうかである。鄭前総長は政治家として実績がない上、混乱した与党圏を纏めていくだけの政

治力は未知数である。孫前知事もまた与党への寝返りが持つマイナスイメージを克服できるのかわからない。さらに、左派政権二期の負の遺産もおおきいため、それを克服できるような大胆なビジョン提示できるかどうかも重要である。それ故、このままだと与党は負ける可能性がある。野党には絶対に権力を渡してならないと考えている与党は、権力と資金、情報、テレビ等を総動員して、必勝作戦を推進中というのが我々がソウルで得た感触でもある。

それは何かと言うと、南北首脳会談開催によるカムチャクシヨウ（びつくりシヨウ）の打ち上げである。8月15日にソウルで南北首脳会談を開催し、南北は北の核兵器の廃棄、北にいる国軍捕虜の釈放、北による拉致家族の返還、平和協定の締結、低い段階の連邦制実施等を発表して韓国民を驚かし、平和ムードを大いに盛り上げる。それらにより、与党が推進してきた太陽政策の正しさを大いに宣伝すると共に、対北強硬姿勢を堅持してきたハンナラ党の反民族性、反統一性を徹底的に叩き、ハンナラ党候補を引きずり下ろすという作戦である。そのため金正日がソウルに来るかも知れないという見方もあった。

3、びつくりシヨウの有効性

問題は、与党と北が打ち出すびつくりシヨウが、果して期待通りの効果を発揮しうるかどうかである。世論調査などで見る限り、国民は冷

静であるようだ。『朝鮮日報』が2月19日に実施した6者協議の合意(2・13合意)についての世論調査では、「北はきちんと守らないだろう」という応答者が77・9%にも達していたのである。

しかし我々が会った保守派の人物の多くは「効果がある」、「国民は舞い上がってしまう」と危惧していた。「国民が騙されなければ(大統領選で保守派が)勝つ」と主張するジャーナリストですら、実は危惧していたようである。

我々がソウルにいて何より驚いたのは、2・13合意により米朝関係が大きく改善され、米朝国交正常化に近いという雰囲気が強かったことである。「米朝が国交正常化したら、日本はどうするんですか」との質問も受けた。我々が会った保守派や脱北者は米政府の対応に失望と不信感を持っており、元気がなかった。

そういう雰囲気の中で、ハンナラ党の対北政策にも変化が生じていた。「太陽政策の狙撃手」と恐れられていた鄭亨根ハンナラ党最高委員は3月14日、「北朝鮮と米国の修交や南北頂上会談が考えていた時期より早く達成される。プッシュ政権の対北政策に大きな変化が起こっており、韓半島の平和体制論議が進行する過程でハンナラ党が疎外される場合、大統領選挙にも不利になりうる」とし、対北政策の転換を示唆していた。このようなハンナラ党の対北政策の修正は、2002年選挙での李会昌陣営の選挙戦術、即ち、イデオロギー対決を回避し、反米風潮に便乗しようとした機会主義的な対応を髣髴とさせるものであった。

あるハンナラ党議員は「今回の選挙でもハンナラ党が勝つのは難しい。選挙政局を動かす常数は金正日、金大中、盧武鉉であり、李明博や朴槿恵は従属変数でしかない」と主張していた。このことは、上記の危惧を裏付けている。

4、北朝鮮の干渉

その北朝鮮であるが、韓国の大統領選挙に、強いメッセージを送り続けているのが注目される。今年の新年の三紙共同社説は「今ハンナラ党を始めとする反動保守勢力は、外国勢力をバックに売国反逆的な企図と再政権の野望を実現しようとする足掻き、策動している。社会の自主化、民主化、祖国統一を望む南朝鮮の各界各層の人民は、反保守大連合を実現し、今年の大統領選挙を契機に売国的な親米反動保守勢力を決定的に埋葬してしまう闘争を力強く推進しなければならぬ」とし、統一戦線の構築を呼びかけている。

また労働党の対南工作機関である祖国平和統一委員会は1月4日、「ハンナラ党の再政権策動は南朝鮮の内部問題だけではなく、国の平和と統一、民族の死活と関連した問題である」とし、韓国の大統領選挙に公然と介入する姿勢を見せている。さらに労働新聞は1月17日、「ハンナラ党が再政権すれば、核戦争が起こる」と、核で韓国民を恫喝したのである。

北朝鮮にとっても、韓国の大統領選挙の帰趨は体制の死活問題にかかわる問題である。昨年10月の核実験以来、対北経済制裁は強まり、北の国際的な孤立は明白である。そういう状況の中、唯一の救いは韓国からの支援である。それも金大中、盧武鉉政権という対北融和政権が存在するからであって、もし12月の選挙でハンナラ候補が勝つならばこれまでのような支援は期待できなくなる。それ故、北にとってハンナラ党の再政権はどんなことがあっても阻止しなければならぬのである。

結び

問題は、韓国与党と北朝鮮が仕掛けるびつくりシヨウが期待した効果を発揮しない場合どうなるかである。ハンナラ候補の当選を絶対に阻止したい与党としては、例えば憲法裁判所を使って、与党候補の当選無効判決を出させる可能性がある。これに対し、ニユーライトの関係者は大統領弾劾決議をした国民はそれを絶対に許さないであろう、と否定的であった。

もう一つの可能性として、韓国で取り沙汰されているのがテロの可能性である。公職選挙法第51条(追加登録)の項には、候補登録締め切り日の6日以降候補者が死亡した場合、同じ党から候補者が出せないことになっている。ハンナラ党で修正の動きがあるが、改正されるかどうかは不明である。

以上が今回の現地調査報告であるが、「今回の大統領選挙は選挙ではなく、戦争である」という、ある韓国人の言葉を紹介し、締めにした。至言である。そういう目で今後の韓国の政治、南北関係、外交、そして経済の展開を見ていく必要がある。

(のぞえしんいち・アジア研究所教授)

中国における「新農村運動」の展開

李 虎 男

1970年代、韓国ではセマウル（新農村）運動が展開された。それから約30年が経った現在、中国では「新農村建設」というプロジェクトが打ち出され、素晴らしいアイデアも相次いで提出されている。さらには、韓国の「セマウル」の経験を学ぶために、毎年、35万人前後の中国人が韓国を訪れる。

中国における「新農村運動」の変遷

中国が打ち出した「新農村建設」プロジェクトは、新しいものではなく、その歴史は建国直後にまで遡る。1950年以後、中国は「新農村建設」を国家的政策として掲げ、農村を再建する運動が展開された。しかし、わずか3年足らずで、大規模な自然災害によってその計画は完全に「餓死」してしまった。3年間続いた深刻な自然災害を勝ち抜けたのも、やはり農村における「三自一包」政策であった。鄧小平の有名な猫論「もこの時期に発表されたものである」。

しかし、結局、農村で展開された「社会主義教養運動」が、文化大革命を引き起こす一つの導火線となった。文化大革命時代でも「大寨を学ぼう」という運動が全国的な旗印となったが、これも新農村建設の運動であった。さらに、中国の改革開放も農村が出发点であった。近代化を目指すブームが起き、都市部で沸き立った。しかし、その発展のために重要な基盤を提供した農村が、いつの間にか活気を失い、都市部と農村との貧富格差はますます拡大しつつある。すなわち、都市部の近代化を押しつけて

た農村部が、いまや都市部の足を引っ張る、という悪循環に転じたのである。

中央政府は一貫して農村重視政策を実施した。2004年から中央政府が発表する第1号文件は、「三農問題」に関する政策だ。すなわち、農業、農村、農民問題の「三農問題」である。中央電視台では胡錦濤国家主席、温家宝総理などの指導者が常に農民と共にいる姿を放映している。これは、中国における「三農問題」は、いかに深刻な問題であるかを表している。農村人口が8億人であることを勘案すれば、中国の復興は、まさに農村の復興によるしかないと言っても過言ではなからう。

可視化された政府の新農村建設の政策

中国はいつ頃から「新農村建設」に対して関心を持ち始めたのか。今年2月、北京で新農村建設プロジェクトに深く関与して来た専門家と意見を交わす機会があった。彼によれば、中国が韓国のセマウル運動に関心を持ち始めたのは、1993年北京で開催された農業政策に関する国際会議で韓国学者が初めてセマウル運動を紹介し、参加した中国学者に大きなインパクトを与え、深い関心を持ち始めるようになった。彼もこの会議に参加し、初めて韓国のセマウル運動に触れたのである。1994年中国農業部代表団の一員として韓国を訪れ、セマウル運動の経験を考察し、その後も、数十回韓国に赴き、セマウル運動について事例研究を行った。さらに、中国の農業問題専門家、農業大学

の学長、大学研究者など高級公務員を相次いで韓国に派遣し、セマウル運動を研究させた。さらに、韓国のセマウル運動についての資料、報告書、研究論文などを政府機関に報告し、セマウル運動について議論が活発に行われたのである。2000年中央政策研究室主任を団長とする政府高位代表団が韓国を訪れ、セマウル運動に携わった専門家と会談した。帰国後政府に対し、セマウル運動を正式に政府の政策として採用するよう提案した。政府は、彼らの提案を正式に採択し、「中国版セマウル運動」が本格的に進められるようになったのである。

中国版の「韓国セマウル運動」

8億人と言われる農民は、建国してから半世紀以上が経ってから「富国強兵」という中国の運命を左右する歴史的舞台に再登場した。中国は「和谐社会」というスローガンを打ち出し、第11次5ヶ年計画の重要な目標の一つとして「新農村建設」を前面に押し出した。その後、開かれた第10期全国政治協商会議第4次会議と第10回全国人民代表大会で、「社会主義新農村建設」に関する計画が論議された。すなわち、「三農問題」が中国の持続的な発展の可否を握る核心的な問題として浮上したのである。

1970年代の最大課題は、「温飽問題」であるとすれば、現在、中国が抱えている最大の課題は、「三農問題」である。1970年代末、鄧小平が「先富論」を打ち出し、中国は飛躍的な経済発展を築き上げた。胡錦濤指導部は、「共同富裕論」を提唱する。「共同富裕論」は、「先富論」によって疎外された階層にも富を拡大させることであり、その核心的問題が、「三農問題」である。この20年間、先富論に人々の意識が集中したため、貧富格差はますます拡大し、持続的な成長を塞ぐ癌細胞として大きく成長したのである。

都市と農村人口の所得格差は、これ以上無視することができないところまで至った。中国統計年鑑によれば、1985年、中国都市部と農村の1人当り年平均所得格差は1・95対1となっていたが、現在は、それが3・2対1まで拡大している。例えば、上海市民の1人当りGDPは4万円を超えたが、所得最下位地域である貴州省農村住民の1人当りGDPは17222元に過ぎない。その差は23倍になっている。

貧富格差は、幾多の社会問題を生み出すのである。第一が政治的な不安定さである。経済の立ち後れによる地方財政の逼迫は、準租税の過大な徴収と基層政府官僚の腐敗につながる。開発による土地補償はもと成り立たなくなっており、農民の不満が噴出する地域も多い。最近統計によると、1992年には1件に過ぎなかった50人以上の集団デモが、去年は8万7千件にまで急増した。その殆どは農民デモである。2004年に四川省で農民10万人が、水力発電所建設用地収容補償デモを起した事件や、2005年1月に広東省で土地強制収用に不満を持つ農民5千人が石と私製爆弾を投げる大規模なデモを起した事件などが代表的な例である。この数年間、こうしたデモが頻繁に発生している。

第二は経済的な負担の大きさである。この数年間、中国経済は年平均9%という高度成長を続けている。しかし、この成長は沿海地域を中心とするものであって、大陸内地を含めた全体的な成長を意味しない。中国の統計年鑑によれば、中国農村人口は、全体人口の58・2%、約8億人である。しかし、中国社会科学院の朴光姫博士は、「都市部に分類された地域の農民まで加えれば、農業従事者は8億人を超える」と分析している。この膨大な貧困地域を「扶養」せざるえない負担は、確かに大きい。政府はこれ

から5年間、毎年2万人ずつ総10万人の大学卒業生を選抜し、農村で2〜3年間、教育、地域事業支援、医療活動サポートなど貧困退治事業（三支一扶）を推進すると発表した。これ以外にも、農村就業を奨励するなど、さまざまな農村支援の事業を行われているが、実効性に関しては今のところ微弱なレベルに留まっている。

第三が、農村を離脱した農民労働者によって発生する社会問題である。確かに、解体されつつある農村を離れた農民が、結局、豊かな都市に寄り集まり、都市貧民層となる。その数も毎年急増するばかりである。中国では、彼らを「農民工」と呼ぶ。彼らは、大部分が中学校卒業以下の低学歴者であり、大都市の戸籍もないため就職も難しい。戸口問題のため、子どもの入学にも制約が多く、住宅を求めるところもできない。殆どの工事労働者は、働きながらスラム街で暮し、犯罪者に転落する場合が多い。今後、農村離脱が加速化されれば、このような農民工が大量に都市部に流入し、大量の失業者に転落する可能性も否定できない。従って、中国政府は農民と農村を育成させ、自己救済策を用意する計画を立てた。その内容は、「現代式農業発展」、「農民所得増大」、「農村環境改善」、「新農民育成」、「農業及び農村財政投入増大」、「農村改革深化」などで構成されている。北京大学の林毅夫教授は、2020年までにこの計画が完成されるだろう、と指摘している。政府は、第11次5ヶ年計画期間中、最初の3年間にその具体的な目標を実現する計画である。

8億農民のアップグレード

中国社会科学院の馬俊偉研究員は、「韓国のセマウル運動が中国の農村建設のモデルになると思う」と自信に溢れる見解を筆者に述べた。それなら、中国農村に、韓国のセマウル運動の

ように成功を収めるのか。中国のセマウル運動は、一つの「近代化啓蒙運動」と言える。その根拠は、自律的な共同体精神にあるのではないかと思われる。確かに、韓国におけるセマウル運動は、人為的な集団精神ではなく、自律的な共同体精神によって成り立ったのである。さらに、都市部と農村部の貧富格差があまり大きくない状況で、韓国国民が、「より豊かな生活環境を作ろう」という共感があったため、都市部と農村がともに発展し、セマウル運動は成功したのである。

しかし、中国の場合は、韓国とは状況がかなり異なる。確かに、都市部は経済力などが強いが、農村部は殆ど消えて行く一方の道を辿っている。中国学者の中から、新たな新農村を建設するために、かつての「合作社」経験を発展させ、集団化で推し進めるべきだという主張もある。しかし、集団化体制の導入によって農民の認識構造が変わりうるのか、果たして8億農民が自律的に共同体を形成することができるのだろうか。結局、中国版「セマウル運動」が成功するのかが、政府からの投資に大きく左右されることになる。しかし、最も重要なことは、農民の積極性を如何に引き起こし、自律的な協力精神を高めるか、ということである。当然、成功させるためには、いろいろな政策の推進と現在の政策転換が先行すべきであろう。韓国のセマウル運動は、決して強い国力を土台に成り立ったものではない。しかし、今の中国は新農村建設に投資する国力はあるし、これから新農村建設に、かなり投資するだろうと思われる。そして、最も重要なのは、農民自身の問題である。結局、韓国のセマウル運動で学ぶものは、形式だけではなく、その自律的な協力精神であると考えられる。

(リ コナン・中国朝鮮半島研究会副秘書長)

「国際中堅企業」の登場 (13)

現地化の次の課題 〈山本電気〉

西澤正樹

上海山本電気有限公司（以下、上海山本電気）は、日系台湾企業の台湾山本電気工業股份有限公司（以下、台湾山本電気）が1994年に上海市松江區に設立した独資企業である。台湾山本電気工業は、福島県須賀川市に本社を構える山本電気が76年に台湾台南県に進出し、ミシン用モーターの生産を行うために設立したものである。

東アジア経験の深い日本企業が中国へ二次展開して国際中堅企業に成長し、さらに現地化を深める過程で直面している課題をみる。

日本のミシン産業の構造変化

ミシン産業は、日本の近代機械工業が成立し発展する過程に歩みを同じくしている。ブラザー工業、蛇の目ミシン工業、JUKI、ペガサスミシン製造などのメーカーが成長して国内需要を満たし、早くから欧米を中心とする海外市場への輸出を図り市場占有率を高めていった。

国内市場では家庭用ミシンの新規需要が一巡し、国産の高機能機種と輸入品の低価格機種に

市場が二極分化していく。国内生産台数の減少を補ったのは、輸出向け工業用ミシンであった。縫製業が成長し工業用ミシン市場が拡大するのは工業化途上国であり、低価格製品が要求された。家庭用ミシンも途上国の需要は大きく、やはり低価格機種が求められた。

ミシンメーカーは市場の量的拡大が期待できる東アジアに生産拠点を移し、低コスト量産を求めた。JUKIは中国（河北省、上海市、寧波市）、ベトナム、ブラザー工業は中国（西安市）、ペガサスミシン製造は中国（天津市）に進出した。

ところで、日本のミシン産業は早くから部品の標準化を進めることにより、大量生産と低生産コストを実現し国際市場競争力を高めてきた。複数のミシンメーカーに標準部品を供給する部品メーカーが存立し、山本電気はミシン用モーターの専業メーカーとして成長した。

山本電気の台湾進出

山本電気は1936年に東京麻布でプレス加工業として創業、その後、戦時疎開で須賀川市

に移転。戦後も東京には戻らず須賀川市にとどまり、2代目経営者がモーターの鉄芯、カバーなどのプレス加工からミシン用モーター等の生産に展開した。

70年代に入り主要顧客であるミシンメーカーが東アジアへ生産拠点を移し、台湾へ集中的に進出した。この時期、部品メーカーで台湾進出したのは当社（ミシンモーター）とオルガン針（上田市、ミシン針、その後94年にベトナムへ二次展開）の2社であった。

当社は76年、台湾台南県に台湾企業と合弁で台湾山本電気を設立する。70年代という早い時期に台湾進出を決めたのは、顧客のミシンメーカーの台湾進出が大きな要因であったが、さらに中国、ベトナム、インドなどへ展開することを予想したからでもあった。

当社の台湾事業は順調に拡大し、89年には従業員数350名に達した。その後、人件費の上昇など高コスト要因が発生し、台湾に進出した日本メーカーや台湾メーカーは中国やベトナムへ二次展開をはじめた。当社も上海市松江區に独資企業を設立し、ミシンモーターの生産を移管していく。台湾での事業経営は社内人材の成長をもたらす、その後の中国への進出に際して、彼らが大いに活躍することになる。

上海への二次展開

上海山本電気は資本金350万ドル、総投資額500万ドルの独資企業として94年に設立され、95年から操業を開始した。扱っている

製品は、ミシンモーター、自動車用冷却ファンモーター、掃除機用モーター、各種プレス部品などである。

主力のミシンモーターは中国国内市場に食いこめていない。モーターは保税扱いで全量輸出している。香港で輸出手続きを行い、製品は上海から台湾、日本および世界各国のミシンメーカーに輸出する。台湾ではモーター完成品の輸入規制があるので半完成品として入れ、日系ミシンメーカーの台湾事業所に納品する。日系ミシンメーカーでは、台湾事業所でミシンに組み込むほか、中国事業所に再輸出する場合もある。

従業者数は180〜190名で推移している。董事長は台湾山本電気の台湾人（非常勤）、総経理は日本本社採用の中国人である。

総経理の王氏は亜細亜大学国際関係学部に留学し91年に卒業、山本電気に採用となった。当時、本社の募集に対して中国人を含め70名ほどの応募があり、合格したのは中国人ばかりであったという。王氏は本社採用人材であり、給与、社会保険などは日本本社の扱いである。氏は本社から上海山本電気に派遣され現地駐在している。

日本人駐在は主任経理（統括部長）、品質管理、設備メンテナンスの3名である。統括部長は駐在10年を経験しているが、2名は3〜5年で交代している。山本電気では中国事業所の経営を中国人に任せていくことを目標としており、管理部門に関して「経営の現地化」を進めている。今後、さらに設備メンテナンス、金型

製作、品質管理を中国人技術者、管理者に権限と責任を移管していくこととしている。

上海10年目の転換期

東アジア全体を見たとき、上海の持つ経済発展の総合力と可能性は他都市を抜き出ており、世界中からビジネスの流れを引き寄せている。上海には東アジアの統括拠点、支店、工場が立地し、国際的なビジネスセンターとして地域経済の発展を求めている。

当社は上海に立地して10年を振り返り一定の成功を得ることができたと評価している。しかし、今後の上海の10年を想定すれば、当社のモノづくりも転換期を迎えているとも考えている。

これまで、上海山本電気は日本本社事業所から移管される製品を山本電気の技術、品質管理を導入して日本や欧米のユーザー（主に日系ミシンメーカーの海外事業所）の厳しい品質要求に応じてきた。それが上海山本電気の目標であり誇りであった。

ところが、「品質のよい商品を求めたいが価格が高いと買えない」とする市場では、当社の製品は売れないのである。高級品市場は徐々に拡大しているが、中国や世界の発展途上国の普及品市場が大きなボリュームを占めている。中国で縫製加工を行う外資企業も中国製のミシンを少しずつ試しながら使いはじめている。当社の顧客である一部のミシンメーカーも中国市場への参入をめざして300元程度の商品を投入

しようとしているが、当社のミシンモーターは「品質はよいが価格が高い」ので海外のハイエンド市場への輸出しきれないのである。

今後もハイエンド市場対応で行くのか、あるいはローエンド市場では過剰品質となってしまう品質水準を調整し参入を図るか、当社のモノづくりの姿勢が問われている。気が付くと中国市場から締め出されていた、という事態は避けなくてはならない。品質水準を下げないで低価格市場に対応するという困難な課題に直面しているのである。中国市場の現実に対応したミシンモーターづくりへの挑戦が重要なテーマとされている。

上海山本電気では、製品シリーズのなかで耐用年数の保障期間など高級品と普及品向けのモーターを作り分けようとしている。そのため、素材や部品の現地調達を進める、地元の外注企業を編成する、生産設備は台湾製や中国製の単能機種を導入する、などして中国の競合メーカー数十社に対抗していく構えである。

技術や品質水準の低いところにある企業がレベルアップすることのほうが、一定水準に到達した企業がユーザーの価格要求に対してコストダウンすることより容易なのである。上海山本電気は中国市場を巡り「追われるもの」の厳しさに直面しているのだが、こうした事態は中国の最終消費者の購買力が少しずつ上昇し市場が拡大していくにつれて、中国で輸出拠点を形成してきた多くの外資企業が直面する共通した課題なのである。

（にしざわまさき・アジア研究所准教授）

諺から見たネパールの農業

島田輝男

この諺は、筆者が昭和五十二年に友人ヨシヤダブ氏と、ネパールの平野部、ジャナカプー
ル県タヌサ郡バナニヤ村で収録したものであ
る。原文はマイティリ語である。

厳しい気象条件の下で、先祖代々農業を営ん
できたバナニヤ村の人々が、その知恵と努力の
結晶を諺に残した。それがネパール農業を知る
一助となれば幸いである。

玄人百姓とは

पहिले काकरी पिछे धान,
तवरा कही पका किसान

パイレ カーカリ ピチェッ タッーン
タワラ カヒー パカー キサーン

前作胡瓜 後作稲
それをいう 玄人百姓

「乾期夏作(二月〜六月)に胡瓜を作り、雨期
作(六月〜十二月)に稲を作る、それこそが玄
人の百姓である」と。

胡瓜など瓜類が乾期夏作として水田前作(日
本の水田裏作に相当)で栽培されている。瓜類
は高温を好み、乾燥に耐える。このように作物
の特性を生かした多毛作化ができてこそ、本物
の百姓であるという。

また、乾期作には灌漑が不可欠で、昔は、浅
井戸や小河川を水源とした釣瓶灌漑で乾期作を
していた。その作業は厳しく、玄人百姓であつ
てこそ出来る仕事でもあった。

शेर जोती निक कए महियानी,
उच कए बहिरि आी,
तव नहि उपजय न डाक के परिर
मती

トッーラ ジョテイ ニカ カエ マヒヤー
ニ、ウチウ カエ バーンヒ アーリー、
タバ ナヒ ウバジャエ タダークケ
パリハ ガーリー

耕起少々破土丁寧、畦は高く造る
それでも不作ならダークの悪口を言え

「田畑の耕起は荒く、破土は丁寧に、雨水を溜
めるための畦は高く造る、それで豊作間違いな
し。もし不作なら、ダークの悪口を言え」と。
日本では反対に、耕せば耕すほど作物が良く
育つという。これは気象環境の違いによる。

ネパール平野部の乾期後半は高温期で、鋤け
ば鋤くほど土壌乾燥が進み、作物が育たない。
破土作業を丁寧にするれば、表土が細かくなり、
乾燥によるひび割れが塞がれ、土壌水分の蒸発
が抑えられる。高畦は雨水をためる工夫であり、

何れも日本人には理解し難い農法である。
ダーク(ガーグ)とは、インド・ビハール州
からネパール中部タライ地方にかけて村人たち
に伝承されている農業聖人のことである。

適期適作の勧め

適した時期に適した作物を栽培する。これは
どこの国でも同じ、百姓仕事の基本である。
稲

अदरा धान पुनवास, उच,
नए किसान जो नए पूष
आद्रालार डट्टीन पुनलबासी
उकाट्टेरा किसान जिओ उओए
पूकाट्ट

稲はアドララーからプナルバサーに播け、プー
カッ(播けば百姓が行く)
「稲はアドララー(第六星宿六月下旬〜七月上
旬)からプナルバサー(第七星宿七月上旬)
に播け、プーカッ(第八星宿七月中旬)に播
くと百姓が潰れる」と。雨期は六月から九月ま
で、田植えは雨期の初めに終わっておけという。

ひよこ豆と小麦
बना बितरा नौपाना,
बिती गहुँ होय

チャナー チトラー チャウグナー、
スワティー ゲフーン ホエ

ひよこ豆チトラー四倍 小麦スワティーに播け
「ひよこ豆はチトラー(第十四星宿十月中下
旬)に播け、小麦はスワティー(第十五星宿十
月下旬〜十一月上旬)に播け、四倍採れる」と。
ひよこ豆、小麦共に冬作物で、その播種適

期は十月中旬から十一月初めにかけてであるといふ。

バナナ

फर्नान केरा रोपन जाय,

मास मास फल बैसत खाय

फार्गुन केरार रोपारु ज्यार्,

मास मास फार्ल बायसल कुत्त

फार्गुन月にバナナ植え、月々座して果実食

べ、バナナをファアグン月(二月中旬)〜三月中

旬)に植えると、何もしなくて、月々バナナを

沢山食べられる」と。

バナナの定植適期は乾期の後半、暑期が始

まったときという。これはバナナだけでなく、

マンゴー、レイシ、グワバナなど、他の熱帯果樹

でも同じであり、農家はそのことをよく知って

いる。

季節と作物

適期適作を實行しても、季節の変化に一喜一

憂するのが百姓仕事である。稲作りの理想的な

季節は

सावन पछिया भादव पूर्वा,

आश्विन बहु ईसान

कार्तिक कन्ता सिकयो, न डोल,

कशा क रखवह धान

サーワン パチツィヤー バッターダワ プー

ルバー、アーシユワン バハー イーサー

ン、カールテイク カンター シキヨナー

ドレー、カハー カラカッパハ ダツーン

サーワン月西風 バッターダワ月東風 アーシユ

ワン月東北風 カールテイク月無風ススキの

止葉不動 どこに置こうか糊

「サーワン月(七月中旬)〜八月中旬)に西風が

吹き、バッターダワ月(八月中旬)〜九月中旬)に

東風が吹き、アーシユワン月(九月中旬)〜十月

中旬)に東北風が吹き、カールテイク月(十

月中旬)〜十一月中旬)にススキの止葉も動かな

いほど無風、その年の稲作は大豊作間違いな

し、糊をどこに置こうかと、百姓が悩む」と。

七月中旬〜八月中旬の西風と八月中旬〜九月

中旬の東風は適度な雨を伴い、九月中旬〜十月

中旬の東北風は小雨をもたらす。これは稲作

にとって理想の気象である。反対に、

जब बरसे अगहनवा से,

तब धान खैरिक हुइ नौर

ज्याबा बारासे आगहनवा रोー, ता

बा टाटून चोच्चीदैक फी च्या

ウラ

アガハヌーワ一月雨あると水田草原となり牧場

「アガハヌーワ一月(十一月中旬)〜十二月中

旬)に雨が降ると稲が腐り、水田が草原とな

り、家畜の放牧場と化する」と。

このころ稲とは在来晩生稲であり、十一月

から十二月が開花登熟期である。この時期に雨

にあつと穂発芽し、稲が腐る。

同様に、「一月から二月の雨は小麦を腐ら

せ、牛を殺し、百姓の足に靴をつくる」といふ。

適正技術

हरिण फलाने काकरी पैगीपेने कपास

जाय कही किसान से बोए घनी उबार

ハリン パツラーゲ カーカリー バイ

ゲーパイゲー カパース、ジャイ カヒー

キサーン セボエ ガツニー ウカツール

鹿が飛び跳ねる程に胡瓜 一歩一歩に綿

密植畑は「間引け」と百姓にいふ

「胡瓜などのつる性野菜は鹿が飛び跳ねる間隔

に、綿などの立ち性作物は人の歩幅に播け、密

植した畑を見つけたら、その百姓に『間引け』

といふ」と。そして、ばら播き畑では、

ना सर मशी अरहर मास,

डेह सर बिघा बीज कपास

पात्र पसेरी बिगहा धान,

गिन पसेरी जहन मान

ドゥ セラ メテツィー アラハラ マー

ス、デダ セラ ビガツー ビージ カパー

ス、パートル パセリー ビガハー ダツ

ン、ティーン パセリー ジャダハン マー

ービガハー当たり播種量はこぼは きまめ 毛

つる小豆ニセラ 綿一・五セラ 五パセリー早

生・中手稲 三パセリー 晩生稲 皆が納得

「皆が納得するービガツー(六十七アール)当

たりの播種量は、こぼは、木豆、毛つる小豆は

ニキロワ、綿は一・四キロワ、早生・中手稲は

二十三キロワ、晩生稲は十四キロワ」と。

(しまだてるお・元サルボダヤ・アシユラム農

業学校校長・元国際協力事業団派遣専門家

(農業))

台湾の出産・育児事情（歳二歳）

岡崎 幸司

愚息は一月で満二歳になった。筆者は遠距離通勤ゆえに平日は時間がなく、専ら愚妻が仕事の傍ら豚児を育ててきた。今回は日々苦勞している愚妻に感謝しつつ、出産から二歳過ぎまでの子育てについて駄文を綴ることにしたい。

出産から月子中心へ

台湾では妊婦が陣痛発生まで働くことは珍しくない。勤め先で陣痛に見舞われた時はそのまま病院へ直行する。週休二日の愚妻は、予定より一日早い日曜に陣痛が起き出産したが、前日の金曜まで平常通り業務に従事していた。

出産後は自宅あるいは夫婦の実家で暮らすか、新生児とともに「産後護理之家（月子中心）」に入るのが一般的である。愚妻は月子中心での静養を希望していたので、産後の有給休暇五十二日のうち前半の二十日を月子中心で、残りを実家で過ごすことになっていた。

出産した産婦人科医院には月子中心が付設されていなかったことから、愚妻は分娩後三日で退院、豚児を連れて予約していた他の産婦人科医院の月子中心へ転院した。愚妻がお世話になった月子中心は、ホテル感覚の一人一室制、

部屋数十五、母親にはデザート二食を含め一日五食、産後に配慮した食事が出される。子供は全員保育部屋の保育籠に入れられ、十名ほどの女性看護士さんが二十四時間体制で面倒を見る。毎週二回小児科医の先生による診察が行われるほか、黄疸の治療も実施される。さらに乳児の入浴方法などの手ほどきがあるうえ、退院後もしばらくは育児の電話相談に無料で応じてくれる。保育部屋はガラス張り、医師・看護士以外は入室禁止、カーテンが開かれる時間帯だけ廊下から子供を見ることが出来る。この時間帯はドア一つ隔てた隣室で子供を受け取り自分の部屋に連れて行くことも許されている。さて、費用であるが、サービスが結構な分、料金も結構で、二十日間滞在した愚妻の場合、大卒初任給の約三倍にのぼった。月子中心は費用は高いものの母子ともに安心して産後を送れるため、多数の妊婦が入居を希望、実際に見学するなどして満足すれば予約を入れる。付言すると、月子中心の出張サービスや出産後を自宅等で過ごす母親向けの食事を製造宅配する会社もある。

満月の習慣

月子中心を退院し実家に戻ると、一週間ほどで「満月」が到来することになった。満月というのは子供誕生後（出産後）一ヶ月が経過することであり、三つの点で重要な意味を持つ。

第一に、母親にとってはようやく洗髪が許される日である。台湾では、満月まで入浴可・洗髪不可という風習があるため、母親は一ヶ月間洗髪を我慢せざるをえず、頭髪が気になってしまふ。愚妻によれば、昔はさらに厳しく、入浴すら遠慮させられていた、とのことである。

第二に、満月は「狀元筆」（狀元とは科擧の最終試験首席合格者）の美名で知られる「胎毛筆」を作る時でもある。頭に生えた胎毛から筆を製作、「臍帶印章（肚臍印鑑）」（へその緒を使用した印章）、「足印」（足形）、「照片」（写真）とともに子供誕生の記念とする。足印に替えて「手印」（手形）を用いることもある。

第三に、満月を迎えた夫婦は出産祝いにくれた人などにお礼をする必要がある。男子誕生の際は「油飯・雞腿・雞蛋」（台湾版赤飯・鶏の骨付きもも肉・ゆで卵）の三点セットまたは簡略して油飯のみ、女子誕生の際はクッキーをはじめ菓子類を贈るのが慣わしであるが、近年この伝統は崩れており、男子誕生であつてもクッキー類を贈ることが多い。筆者夫婦は、出産祝いには愚息のもの、お返しは筆者持ちとしたものの、何を贈ればよいか迷い決断できずにいた。決めかねていたときに、義母と愚妻の「乾媽」（血縁関係はないが互いの合意で親子関係を結んだ母親）の二人から、クッキーをセット（二種類計二箱）で贈ることにし、品物

も選んだのでどうか、との連絡を受けた。ありがたい話ではあったが、少々困惑した。月子中心の費用を納めたばかりで、大盤振る舞いに対しては懐具合が心もとなかったのである。愚妻は、たとえば、筆者の心配をよそに二人の提案に大賛成であった。どうも一枚咬んでいたらしい。それはともかく、試食したところ美味であったし、包装用の箱もシンプルで感じの良いデザインだったので筆者も覚悟を決め同意した。こうして、仲人の先生にはクッキー以外に油飯三点セットを贈ることもあわせ、満月の贈り物が決まり注文したのであるが、予想に違わず、二百数十人分合計五百箱を超えるクッキーの請求書を見たときにはため息が出てしまった。

託児開始

夫婦共働きが普通に見られる台湾では保母さんなどに子供を託す家庭が多い。筆者夫婦も、愚妻の産後休暇明けは育児と仕事の両立が難しいことや義母の健康状態を考慮し、二、五年三月末から保母さんに預けることになった。月曜の朝から金曜の夕方までを保母さんに任せ、それ以外の時間を自分たちで育てることに決めたのである。週に一度水曜の夜に愚妻が保母さん宅を訪れて豚児に接すること、月・火・木は夜に電話をかけて様子を尋ねることにし、保母さん夫妻の了解を得た。平日は二十四時間預けることにしたのは、毎日送り迎えすると生後間もない体に悪影響を与えるのではと危惧したことにくわえ、仕事から帰り心身ともに疲労して

いるなか翌朝まで三、四時間おきに授乳したり紙おむつを交換するのは大変だからである。

保母さんには手当を渡さなければならぬ。月給は大卒初任給を若干上回る水準（平日二十四時間託児の場合）、ボーナスは年一回月給一カ月分である。また、端午節・中秋節の両祝日も相応の金額を包む必要がある。週末や休日に託児すると追加の手当が求められるし、粉ミルク・紙おむつなどは自費、子供が着る下着・服の洗濯も親の責任とされている。台湾では粉ミルクや紙おむつは輸入品が大半を占めるためかなり高い。子供用の衣料が高額なこともあり、子育ては日本に負けず劣らず物入りとなる。そこで、保母さんの手当と小物は筆者、その他は愚妻という形で育児費用を分担している。

愚息を預け始めてから一年が経過した二、六年四月に託児内容を見直し、平日の日中だけ保母さんに依頼することにした。骨が折れる子育ても一歳を過ぎれば多少は楽になるし、できる限り愚息と一緒にいた方がよいと考えたからである。託児時間の縮小に伴い保母さんに渡す月給も大卒初任給を幾分下回る水準にまで変更された。もともと、減額分を毎朝夕に豚児・愚妻を送迎する義父のガソリン代に充てることにしたため、筆者の負担額は以前と変わらない。住宅ローンの元本返済も筆者の役目なので、月給の大部分は育児関係の費用と住宅ローンの返済に消えていき、手元には雀の涙ほどしか残らない。稼がが悪いのか、出費が多いのか、おそらく両方だと思うが、父親はつらいのである。

愚息の日常を説明すると、平日は朝食を終えてから義父の車で愚妻・義父母と台北市の中心部へ向かう。保母さん宅、愚妻の勤務先を回った後、悠々自適の義父母は気ままに過ごす。夕方になると義父が車を出し、まず愚妻を、続いて豚児を迎える。その間、義母は筆者夫婦の分も含め夕食作りに専念、愚妻の残業が長びくときは愚息を迎えに行く。豚児は保母さん宅で入浴と夕食を済ませており、帰宅後は主に愚妻が相手をし、午後八時前後に就寝させる。愚息は燃費が悪く、日中に限らず深夜にもミルク補給を要する。二歳少し前までは牛乳成分の粉ミルクを飲ませていたが、愚妻の判断で現在は羊乳成分のものを使っている。これは、漢方で羊肉が体に良いとされていることによる。

土・日は天気が良ければ、朝食後に義父母とともに家族全員で外出、公園等で運動した後に義父母宅へ立ち寄り、義父母宅に着くと愚息はすぐに入浴、しばらくしてから昼食、続いて季節の果物を楽しむ。その後は拙宅に戻り昼寝に入る。昼寝から目を覚まし、一段落つくと夕食である。夕食が終了すると親子三人で音楽を聴いたり、玩具で遊ぶなどして過ごし、平日同様、夜八時頃床に就く。豚児の平均的な一週間を簡単に述べると以上のようになっている。

読者諸賢の中には台湾の小児医療に興味をお持ちの向きもあるうかと推察するが、稿を改めざるを得なかった。ご寛恕を乞う次第である。

（おかざきこうじ・中華大学人文社会学院

副教授）



ASEANは、二〇一五年に共同体創設を指している。ASEAN共同体は、安全保障共同体、経済共同体、社会文化共同体の三つの共同体から構成される。

共同体の実現に向け、重要なことは合意事項が実施されることである。ASEANは、ASEAN方式(ASEAN Way)と呼ばれた意思決定方式を採用してきた。コンセンサス方式、内政不干渉、緩やかで曖昧な合意などに特徴づけられるASEAN流の意思決定方式は、経済格差や政治・社会・文化面の相違が大きく、様々な対立があったASEANの統一を維持しながら、協力を進める面では効果があった。しかし、首脳会議や経済閣僚会議などの合意と決定が実行されないことがあるという問題があり、実効性の向上が課題となっていた。ASEANのFTAであるAFTAがAtrioo First Talk Afterと皮肉られてきた所以でもある。実効性の向上を図るべくASEANが取り組み始めたことはASEANの憲法というべきASEAN憲章の制定である。ASEANは、二〇〇五年の首脳会議でASEAN憲章の制定に向け、賢人会議を設置し検討を行ってきた。二〇〇七年一月の第十二回首脳会議で

共同体創設に向けて組織強化を図るASEAN

は、賢人会議の報告を承認するとともに、「ASEAN憲章の指針に関するセブ宣言」に調印、二〇〇七年十一月にシンガポールで開催される第十三回首脳会議までに起草作業を完了することにした。

賢人会議報告書は、ASEANが創設四〇年を経て最も成功した地域機構となったが、今後地域協力の推進力であり続ける保証はないとし、ASEANを強化するために、様々な提言を行っており、意思決定と実効性の向上について次のような提言を行った。

決定事項の実施メカニズム

ASEANの目的、原則、合意への重大な違反や不履行に対しては、除名を含む、権利、特権の停止などの措置をとる意思決定

意思決定

コンセンサス方式を原則とし、特に、安全保障と外交政策のセンシティブな分野では、意思決定はコンセンサス方式による。他の分野ではコンセンサス方式で決定が出来ない場合は投票による。投票による場合は、単純多数決あるいは三分の二か四分の三の多数決により、決定する。事務局による合意事項実施の監視と不履行への権利停止などの罰則導入は、従来問題となっていた実効性の欠如を是正するものと期待される。また、投票による多数決、合意不履行や違反した場合の除名を含む罰則の導入などは、ASEANの意思決定方式を非拘束的なものから拘束性の強いものに一変させよう。提案が憲章草稿にどの程度、取り入れられるかはわからないが、ASEANは歴史的な転換点を迎えているといえよう。(石川幸一・アジア研究所教授)

アジア研究所だより

アジア研究所 第二七回公開講座のご案内

「東アジアの政治をどうみるか」をテーマに六月二日より毎週土曜日(午後二時～三時四十分)に公開講座を開催いたします。

六月二日「安定に向かうか胡錦濤体制」

阿部純一(財団法人 霞山会主席研究員)

六月九日「韓国の大統領選挙の行方と南北関係」

野副伸一(アジア研究所教授)

六月一六日「タイの軍事政権と民政移管の見通し」 助川成也(日本貿易振興機構 海外調査部)

六月二三日「国際テロネットワーク」

武田いさみ(獨協大学外国語学部教授)

六月三〇日「台湾の総統選と中台関係」

小林照直(アジア研究所所長)

開催場所・亜細亜大学二号館二〇〇番教室

受講料・三、〇〇〇円(全五回一括)は、郵便振替にて、亜細亜大学アジア研究所〇〇一

〇〇 六 五九七二へお振込みください。

振込み時の「受領証」と引き換えに「受講証」をお渡します。初めてお越しの日に「持参ください」。

振込み用紙は郵便局備え付けの用紙をご利用願います。

問い合わせ先・亜細亜大学学務部学務課

電話 〇四二一 三六 三一七二